

吉野せい(1899~1977)は、現在の福島県いわき市小名浜に生まれました。小名浜尋常高等小学校の高等科を卒業後、検定で教員資格を得たせいは、17歳の時の1年間、小学校代用教員を務めます。その後、現在のいわき市平で伝道師をしていた詩人・山村暮鳥、考古学者・八代義定を知り、その感化も受けて文学の道に進みました。

1921年に22歳で、阿武隈山系菊竹山麓の荒地の開墾に従事していた農民・吉野義也(詩人・三野混沌)と結婚、それまで書いた原稿や日記をすべて焼いて開墾生活に入ります。1970年に夫・混沌が死去、草野心平の強い勧めにより、70歳を過ぎて再び筆をとり、『凍をたらした神』が1975年、第6回大宅壮一ノンフィクション賞、第15回田村俊子賞を受賞し、76歳の「新人作家」として各界に衝撃を与えました。

本展では、せいの没後40年を記念し、現在も読み継がれる作品の背景と魅力を紹介します。

下写真は、吉野せいが夫・混沌とともに開墾した菊竹山麓。現在のいわき市好間町北好間



吉野せい『凍をたらした神』 1974年11月 彌生書房

吉野せいさんは今年75歳になる百姓バツパである。阿武隈山脈南端の菊竹山麓の藪ッ原を開墾した傑れた詩人、三野混沌(本名 吉野義也)と結婚、混沌は4年前に死んだが、彼女は今でも野良仕事をつづけている。3年前彼女は『暮鳥と混沌』を出したが、それもこの作品集も70歳を越してから書かれたものである。百姓をやりながらのそのエネルギーにも恐れ入るが私が衝撃されたのは、せいさんの作品自体である。小説であって所謂農民小説ではなく、記録であっても単なる記録でない、これらは怖ろしい文学である。

草野心平が吉野せい『凍をたらした神』に寄せた帯文

会期中の催しのご案内 料金記載のない催事は、鑑賞、参加無料です。 ※は文学館ボランティアの会事業

スポット展示「猪狩満直」 10月7日(土)~12月24日(日) 文学館常設展示室内 要観覧券
いわきゆかりの農民詩人で、草野心平、吉野せい夫妻とも交友のあった猪狩満直を紹介します。

文学散歩 10月21日(土)7時30分~18時 要申込 有料 詳細はお問い合わせください。
栃木県足利市、草野心平が開いた「バア学校」の由来にもなった足利学校などをめぐります。 ※

朗読祭「吉野せい作品を読む」 11月3日(金・祝) 14時~15時30分 文学館小講堂
いわき絵本と朗読の会 一般参加者の朗読も同時開催(当日受付 先着5名 お一人5分まで)

没後30回忌「心平忌」・第24回「心平を語る会」 11月12日(日) 11時30分~13時
常慶寺・いわき市草野心平生家 参加費500円 主催 夢想無限の会

朗読と音楽の集い 11月23日(木・祝) 14時~15時 文学館小講堂
Happy Pockets ハッピーポケット ギター 小関佳宏 ヴォイスパフォーマー 荒井真澄

ワークショップ「ガリ版で年賀状をつくろう」 11月25日(土) 13時30分~15時
講師 藤本元雄 文学館小講堂 定員30名 要申込 先着順で定員になり次第、受付終了。

クリスマスえほんコンサート 12月23日(土・祝) 14時~15時 文学館小講堂
いわき絵本と朗読の会ほか 小学生までの先着150名様には、サンタクロースがお菓子をプレゼント。 協力 文学館ボランティアの会

朗読サロン 10月7日(土)、11月4日(土)、12月2日(土) いずれも11時~12時 文学館会議室 楽しみながら朗読を学びます。 ※

文学館えほんのひろば

アトリウムロビーのえほんのひろばは、どなたでも無料でご利用いただけます。豊かな自然の中で、ぜひ楽しみください。

